

ポートランド調査全体について

日時：2013年8月17日（土）～8月25日（日）

記入者：大阪府貝塚市 七野司

ポートランド調査を通して私が感じたこと、それは「思い」、「仲間」、「楽しむ」の3つである。自分が何のために地元で頑張っているか、その「思い」を強く持ち続けること。その「思い」にわずかでもいいから共感してくれる「仲間」を持つこと。そして、その「仲間」と「楽しむ」ことで継続して「思い」の実現のために頑張っていく。自分が漠然と感じていた「こうではないかな」という疑問が、「間違っただけではなかった」と確信に変わったポートランドでの研修であった。

ポートランドに行く前は事前研修等で、アメリカの地方行政、ポートランド市の行政の仕組み、ポートランドの住民参加の取り組みの具体的なケース、市内探索学習の準備を学習した。そして、事前研修からポートランド調査までの間に、今回の調査に多大なるご協力をいただいたポートランド州立大学のスタッフの皆様と facebook を利用してさらに深く事前調査を進めた。しかし、事前調査を進めれば進めるほど、現役生の仲間やスタッフの皆様と議論が深まれば深まるほど、私の中に大きな不安とプレッシャーがのしかかってきた。それは、週末学校の OBOG の先輩方が研修の議論の際によく言っておられた「ポートランドに行けばわかる」という言葉からくるものであった。さまざまなテーマで先輩方と議論させていただくチャンスがあったが、「ポートランドに行けばわかる」という言葉を言われるとそこで思考停止になってしまう自分がいた。ポートランドに行っていないからどうせ自分はわからない、とどこかふてくされていたのかもしれない。しかし、ポートランドの調査が近づくにつれ、事前調査でインプットした情報を処理しきれず、ポートランドに行っても自分は何も気づくことはできないかもしれない、と本当に悩み不安とプレッシャーを抱えポートランド調査に入った。

しかし、実際に見た現場、地元で本当に汗をかいている人の声とその中にある思い、それらのすべてが私の不安とプレッシャーを飲み込み、心の奥底まで染み渡った。ポートランドに行く前に考えていたことは、実は自分が勝手に心に防波堤を作っていたと痛感した。そして最大の収穫は、市民であれ仲間であれ自分の目の前にいる人の思いを聞かせてもらおう、そして自分の思いを聞いてもらおうという会話をするのが本当に大事なことだと教えてもらったことであった。

ポートランドでさまざまなカリキュラムを受講した中で、西芝先生、ダン先生、チップス先生、ポートランド州立大学のスタッフの皆様、現役生の仲間とのビーストーミングが一生忘れることのできない時間になった。みんなの思いを聞き、自分の思いを聞いてもらい、抑えることができない感情とあふれ出てくる涙で、今まで飲んだことのないビールの味になった。そこでの議論を経て、冒頭の思いに至ったのである。

ポートランドで出会ったすべての方に心からお礼を申しあげる。

「ポートランドに行ってわかったこと」を自分の血と肉にして、自分の地元と仲間を楽しみながら還元し続けていきたい。